

三島市 第2回新庁舎整備に関するワークショップ開催報告

○開催概要

新庁舎整備における基本構想・基本計画へ、市民意見に加え、自治会、地元関係団体等の幅広い意見を反映させるため、令和4年11月12日に行った第1回ワークショップに引き続き、第2回を開催しました。ワークショップ参加者は市民、各関係団体の推薦者、学生及び市職員で構成されます。なお、市民は前回の市民会議参加者から継続してワークショップへの参加を希望する方を募り、市職員は35歳以下の若手職員から公募しました。

日時：2023年2月18日(土)13:30-15:30

場所：社会福祉会館4階 大会議室

参加者：21名

テーマ：「理想の庁舎像とは」

(前回内容)

第1回ワークショップでは、まず新庁舎整備計画の概要説明を行い、これまでの経緯、整備の基本方針、候補地概要、庁舎整備の事例を共有しました。

その後、A~Eの5グループに分かれて検討を行いました。自己紹介で各々の「三島の好きな場所」について共有した後、以下2テーマについて討議を行い、会の最後には、各グループの代表者に、検討成果を発表いただきました。

テーマ：①「三島のまちでどのようなことがしたいか。どのような場所があると良いか。」

②「①を踏まえ、市庁舎でしたいこと、あったら良いスペース・機能は何か。」

○プログラム

①オリエンテーション 13:30~13:50

第1回ワークショップの振り返り、明治大学大学院の学生提案の概要説明、まるごとマルシェの事例紹介を行いました。

- ・第1回ワークショップの振り返り/5分
- ・明治大学大学院の学生提案の概要説明、まるごとマルシェの事例紹介/5分
- ・本日の流れの説明、ワークショップの説明/10分

②グループワーク 13:50~15:00

前回に引き続き、同じメンバーでA~Eの5グループに分かれて検討を行いました。

始めに、自分の班で第1回ワークショップの振り返りを行い、その後ワールドカフェ方式(※次々頁)によるグループワークを行いました。

- ・第1回ワークショップの振り返り/10分
- ・ワールドカフェ方式による意見交換/20分
 - 休憩・明治大学大学院の学生が製作した建築模型の見学/10分-
- ・理想の庁舎像について検討/20分
- ・グループの意見まとめ/10分

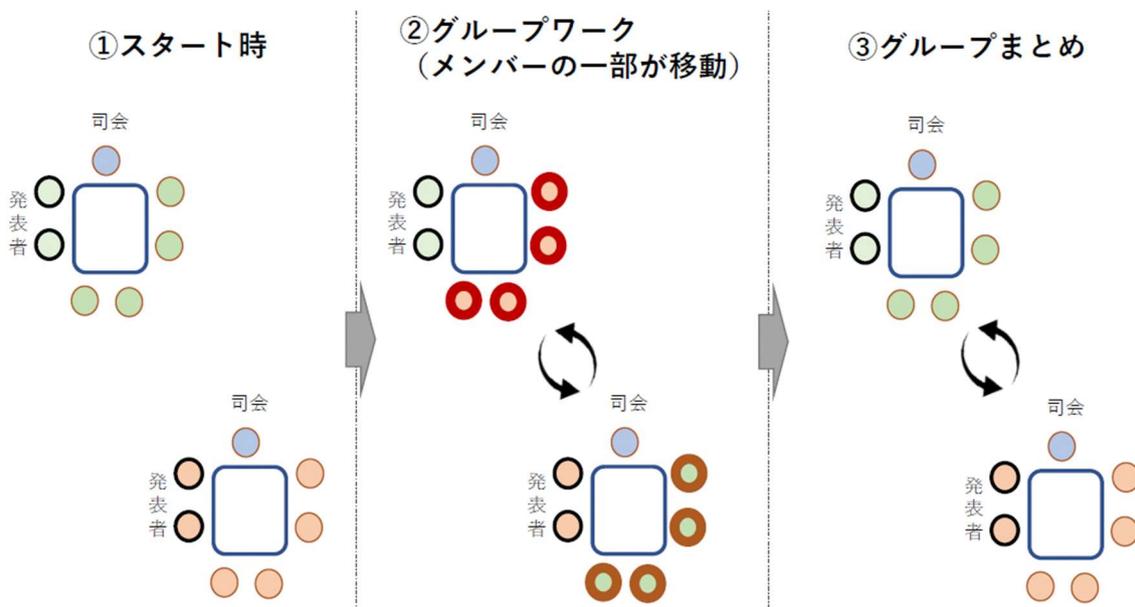
③共有 15:00~15:30

各グループの代表者に、検討成果を発表していただきました。

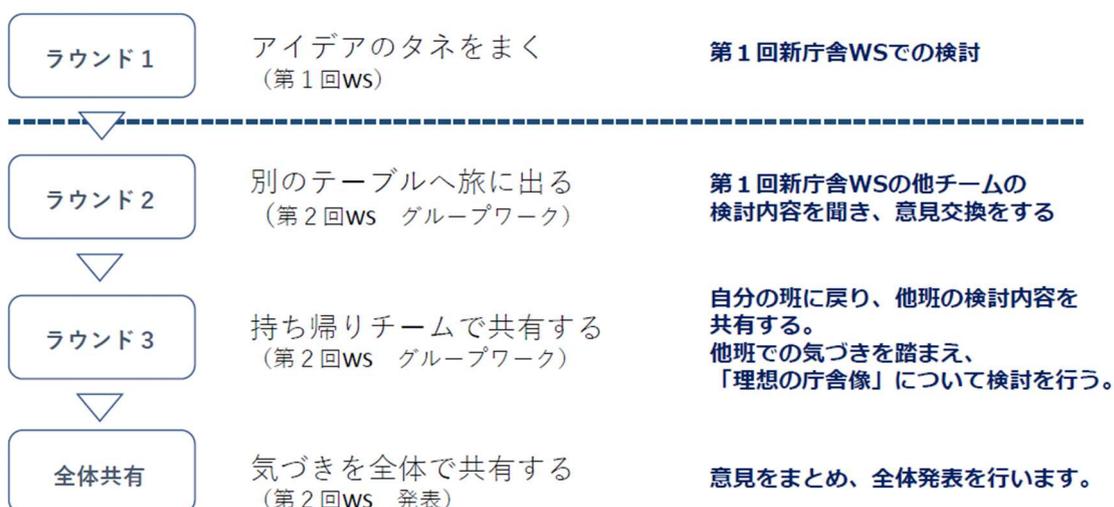
- ・全体発表/25分 (5分×5グループ)
- ・今日のまとめ/5分

※他の班を回り、検討内容を共有しながら進めるグループワークの方式。

当日の動き方は以下の通りでした。



図：班の回り方



図：検討の進め方

- ①司会と班の代表者 1~2 名が自分の班に残り、他のメンバーは他班を回ります。
- ②班に残った代表者は、第1回ワークショップの検討内容を発表し、他班を回るメンバーは、発表内容に関する意見交換を行います。
- ③他班を回り終えた後に自身の班に戻り、意見交換の内容を共有、「理想の庁舎像」について検討を行います。

○実施風景



オリエンテーション



第1回ワークショップの振り返り



グループワーク



グループワーク



学生提案の見学



全体発表

○検討結果

ワールドカフェ方式での他班との意見交換の内容、その後の「理想の庁舎像」に関する検討内容を、以下に整理しました。

※一部、表現が伝わりづらいものについては語順変更、語尾修正をしています。

■グループ A

(他班との意見交換)

項目	意見
フレキシブルな場所の活用	・フレキシブルなゆとりスペースがほしい（日常とイベント） →今は展示スペースもないので
人同士のマッチング	・地域のコーディネーターのような人材を紹介する場 ・能力を紹介する掲示板（定年退職後とか）
防災	・災害時には、地下にいろいろなものを保管できると良い ・災害時に支援物資が保管できるフレキシブルな使い方
文化	・自由に弾けるグランドピアノ
子ども	・1日遊べるキッズスペース（室内遊園地）
まちの魅力の向上	・暗いまちなかをライトアップ（源兵衛川）
人口減少を踏まえた検討	・人口減少したときにどのような市庁舎をつくるか ・人口減少、オンライン手続き →ますます市役所としての機能が問われる
機能の集約化	・分散しているものを集約した方が良い



(理想の庁舎像に関する検討)

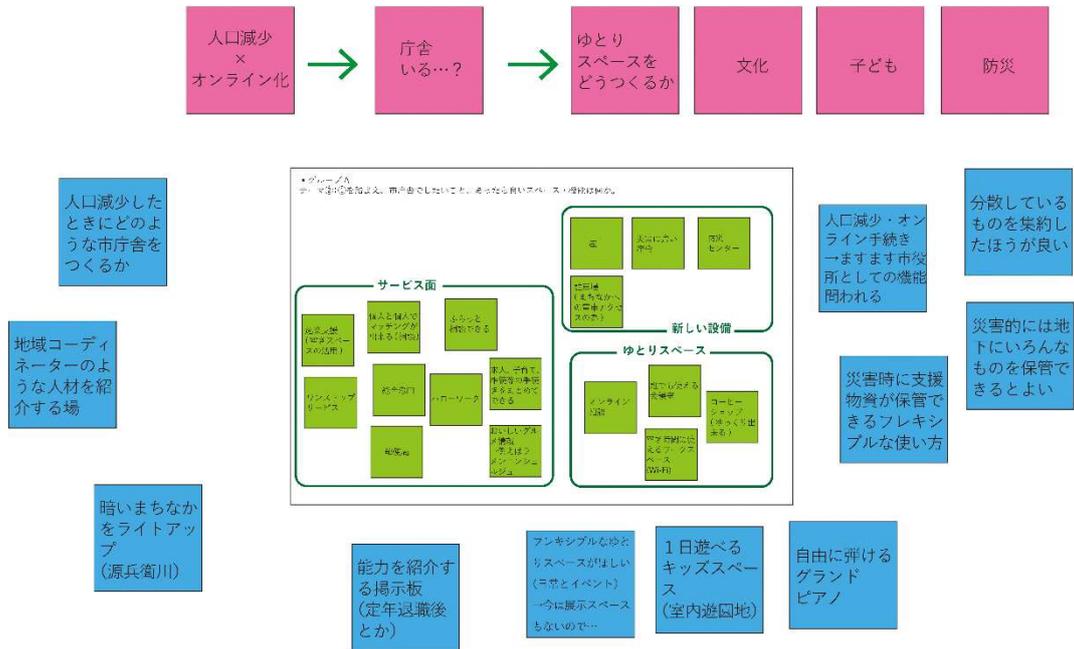
意見交換であがった議題	検討結果
人口減少やオンライン化が進むが、市庁舎は必要か	必要。
余裕のあるスペース（ゆとりスペース）をどのように作るか	平日と休日で機能を切り替えるなど、フレキシブルなスペースの活用を行う。
ゆとりスペースの活用方法はどのようにするか	文化、子ども、防災の機能を検討する。

(意見まとめ)

- ・人口減少やオンライン化への対応で余裕のできたスペースを「ゆとりスペース」として活用する方法を考えたい。
- ・機能の切り替えなどが行えるフレキシブルな空間の活用によって、文化、子ども、防災のためのスペース創出を目指したい

(検討成果)

■グループA（ピンク：グループAの意見、青：他グループとの意見交換の内容）



■ グループ B

(他班との意見交換)

項目	意見
理想の庁舎 の考え方・ プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光目線と生活目線の両立 ・ 人の集まるまち、人の憩えるまち、住みやすいまち、どれもが大事。どう混在させるか ・ 求められるソフト的な機能→必要な庁舎のかたち、規模が導かれる ・ ソフトとハードのバランス ・ 将来の人口減少などを見越した規模 ・ 家にピアノがない人も行きたくなる（手続き以外の利用）
まちの 情報拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちの情報案内 ・ 市内の情報のストック・発信 ・ 移住者が増えるとよい ・ 地域のコーディネーター等の人材育成 ・ 所内の異動時の引継ぎ（まるごと異動しないで…） ・ 気軽に話せる職員がいるとよい ・ DX化で子育て世代も遠出せずに済んで助かる ・ 移住だけでなく子どもを増やす政策を ・ 何でも相談できる窓口がほしい（案内係のような） <p>→市民雇用で参加の場とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりをすすめていくリーダーって？
三島の資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 源兵衛川の夜はまっくら。 ・ 資源はあるので観光を意識して整備するとよい ・ ストリートピアノなど自由に使えるものがあるとよい ・ マラソン大会（修善寺から走るイベントが昔あった） ・ 水資源を大切に（桜川沿いの文学碑にもうたわれてる）共存にも寄与
機能配置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少、デジタル化。機能に見合った規模の庁舎+マイナンバー等コンビニへの機能の分散 ・ 市役所機能を移して観光などの人の集まる拠点をまちなかに置くとよい。民間システムも活用して駐車場も用意する。 ・ 機能分散で有事の際のリスクマネジメント ・ 移転したら川の横、防災拠点に
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩けるまちなか ・ 田町駅がバリアフリー化していない。無人。 <p>→使いづらい人いる、直結バスほしい</p>

(理想の庁舎像に関する検討)

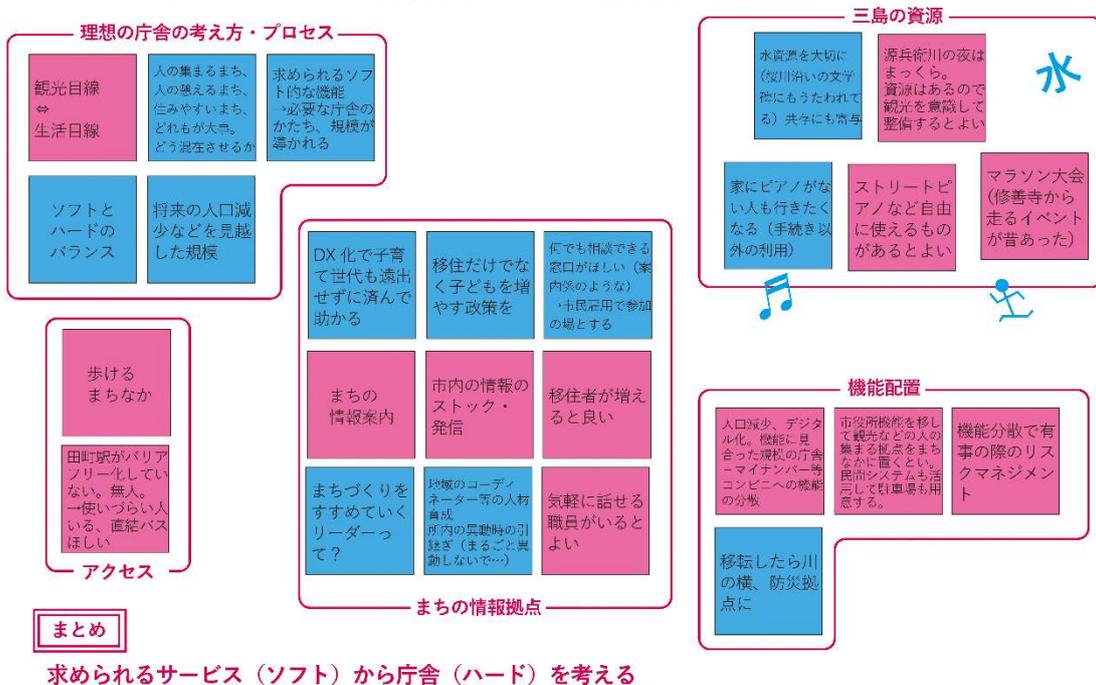
意見交換であがった議題	検討結果
三島のまちなかの理想像	水資源や文化等、三島のまちの資源の大切にし、見せ方を検討する。
理想の庁舎の考え方・プロセス	求められるソフト的な機能から必要な庁舎のかたちや規模を導く。
まちの情報拠点の役割	まちの情報案内、何でも気軽に相談できる場所。

(意見まとめ)

- ・求められるサービスの目線から必要な庁舎のかたちや規模を考えたい。求めるサービスの例としては、何でも相談できる「まちのコンシェルジュ機能」があげられる。
- ・人の集まるまち、憩えるまち、住みやすいまち、どれも大切なため、それらが混在するまちづくりを目指したい。三島のまちの資源を活かしたい。

(検討成果)

- グループB (ピンク：グループBの意見、青：他グループとの意見交換の内容)



■ グループ C

(他班との意見交換)

項目	意見
市役所のサービスのありかた	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル化をみすえた市庁舎 (マイナンバーetc…) ・ 事務スペースは効率化 ・ DX 化 ・ 三島の魅力 情報発信する → 既に良いものがたくさんある ・ SNS で発信 → 行くきっかけ ・ サービスについても考える ・ 土日もやってほしい ・ 防災機能も大事!! 日常は誰もがつかえる (フレキシブル)
市役所に求める機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかに集会所がない ・ 誰でもひけるピアノ ・ 食堂があるといい!! わざわざ行く価値のあるお店 ・ 行きたいからとりあえず行く市庁舎 ・ 地域と連携した食堂 ・ 付加価値がある
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民サービス (子どもが住みやすい) ・ 少子化に取りくむ市庁舎
理想のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住みやすいまち、集いやすいまちの共存 ・ 人が流れ着くところ (三島に来れば何とか生活できる)、良さでもあり治安の問題あり
立地・アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現市庁舎が跡地になるかどうかで将来像や考え方が変わる ・ まちなかには観光と駐車場 ・ 駅前にアクセスしやすい
共感意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の丈にあった市庁舎に共感 ・ 駐車場が足りない ・ 自然、文化、歴史、富士山は共通意見 ・ ゴールがどのチームも一緒 (集える場所があるといい)

(理想の庁舎像に関する検討)

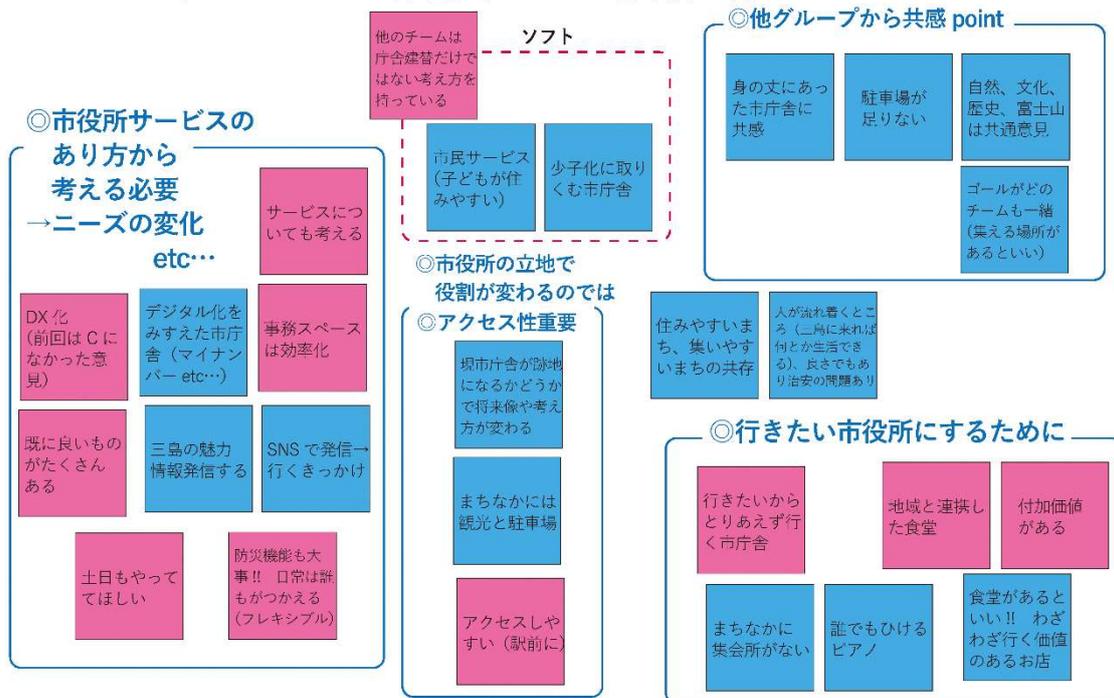
意見交換であがった議題	検討結果
市役所のサービスのあり方	DX 化をみすえたサービスのあり方を考える。 日常時は誰でも使える、非常時には防災機能を果たすフレキシブルなスペースの活用を行う。
行きたい市役所にするためには	地域と連携した食堂など付加価値を持たせ、行きたいからわざわざ行く庁舎を目指す。
市役所の立地、アクセス	市役所の立地により庁舎の役割は異なる。アクセス性が重要。

(意見まとめ)

- ・DX 化をみすえた市民サービスの検討を行いたい。有事の際は防災機能として活用できるスペース、平時の際は多目的スペースとして市民開放を行いたい。
- ・わざわざ行きたくなる庁舎としたい。例えば地域と連携した食堂を設けるなど、付加価値をもたせることを目指したい。

(検討成果)

■ グループ C (ピンク：グループ C の意見、青：他グループとの意見交換の内容)



■ グループ D

(他班との意見交換)

項目	意見
スリム化	<ul style="list-style-type: none"> ・スリム化賛成 ・窓口の一元化 ・余力の創出
付加価値のある場所	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会との一体化（選択肢の拡大） ・手続き→相談場 ・地域のデザインコーディネーター（例：川崎市） ・ボランティア精神 ・学生用のハードルの低いコワーキングスペース ・アドバイザー、コーディネーター、案内人
庁舎に求める場	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人が寄り添い合えるような場所 ・人とのつながりによる情報共有・助け合い ・相談をする場 ・シンボリックな場所 ・付加価値を加える ・人が集まりやすい場



(理想の庁舎像に関する検討)

意見交換であがった議題	検討結果
DX化への対応	スリム化・窓口の一元化等、機能や使い方の変換を行う。DX化と人との交流の両立を図る。
庁舎の役割	手続きだけでなく相談をできる場所。地域のコーディネーターによるマッチングや、人とのつながりによる情報共有等の付加価値を加え、人が集まりやすい場所とする。

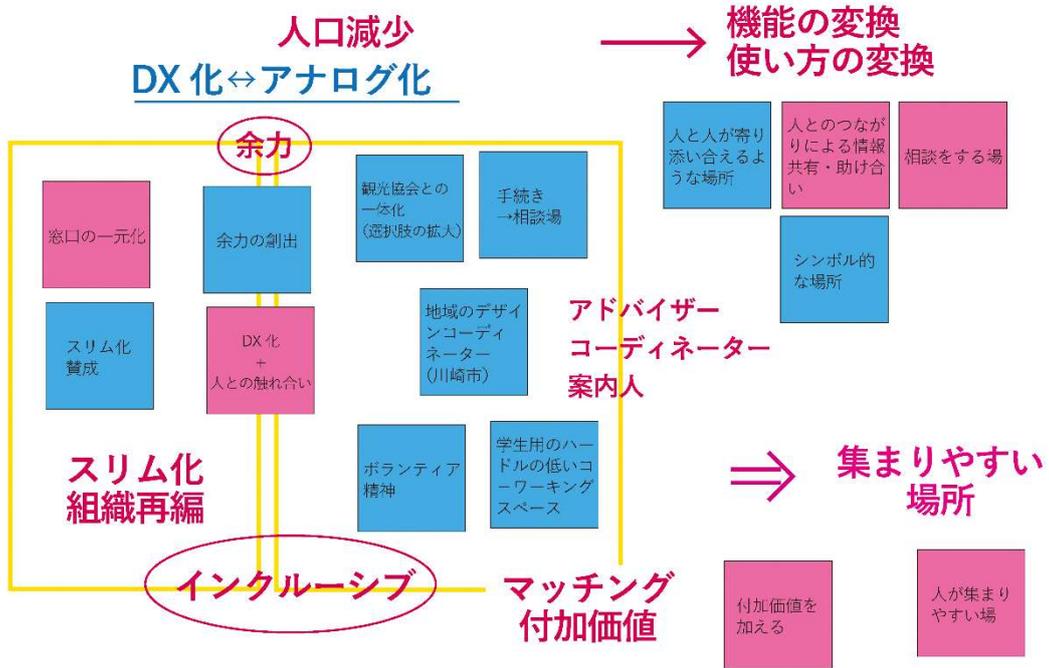
(意見まとめ)

・DX化等によりスリム化されることから、庁舎の機能や使い方の再考が必要。また、DX化と人と人との触れ合いを両立させたい。

・地域のコーディネーターをはじめとした繋がりづくりや、相談ができるような、付加価値のある集まる場所を目指したい。

(検討成果)

■ グループD (ピンク：グループDの意見、青：他グループとの意見交換の内容)



■ グループ E

(他班との意見交換)

項目	意見
DX 化	<ul style="list-style-type: none"> ・ DX 化が進むなかで、庁舎に残るものは？ ・ 人口減少の流れ→DX 化で省スペース化
庁舎の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な機能と、必ずしも必要でない機能の垣根がなくなると良い ・ 市役所に来なくてもよいなかで、来る目的もあると良い。来たいから来る。 ・ まちなかに出たくなる、回りたくなるきっかけとなる機能・場所 ・ 来たくなる機能として名物の食べ物を提供する <p>→市の職員も市民も来たくなる（例：オリジナルカレー）</p>
相談できる場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手続きではなく、相談事をしにくるような場所（DX 化しつつも人との交流） ・ 市役所に来る人は何をしにくる？手続きはいらなくなってくる。
三島の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三島の魅力→水、箱根の産物、歴史 ・ デジタル化→発信基地 サービスを教える、まちの魅力を伝える
機能、使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が発信できる場所が欲しい（学校と庁舎の連携） <p>→多目的に使える広いスペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 便利機能があると立ち寄りようになる ・ 三島はよく人とすれ違う出会いの多いまち。 <p>→知識や生活の知恵を共有できる場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行ってみたい、住みたい、くつろぐ/憩う→混在するまち



(理想の庁舎像に関する検討)

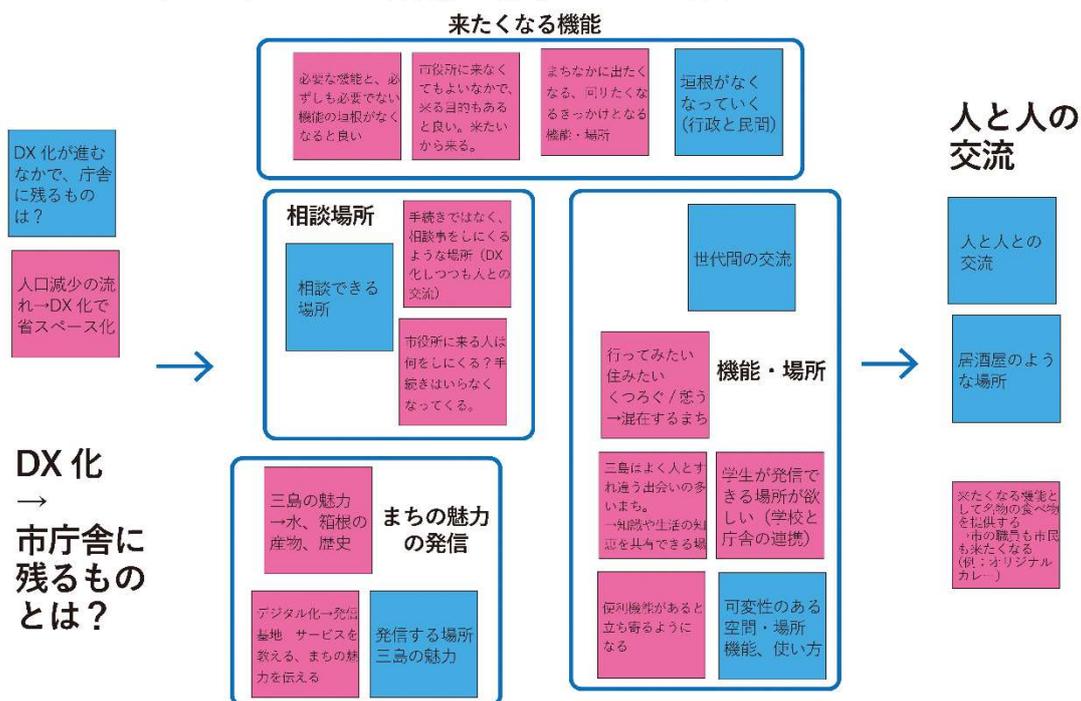
意見交換であがった議題	検討結果
DX 化のなか庁舎に残るもの	相談やまちの情報の共有などを通じた「人との交流」が庁舎に求められる。
庁舎の役割	会議や手続き等必要な機能と、ワークスペースやおいしい食堂等の、必ずしも必要でない機能の両方があると良い。来たくなる庁舎、まちなかに出るきっかけとなる庁舎を目指す。

(意見まとめ)

- ・DX化が進む中で、庁舎に残るものについて考えたい。
- ・手続きではなく相談事をする場所、世代間の交流ができる場所、三島のまちの魅力を発信する場所など、人と人の交流を目的とした機能や場所づくりを目指したい。

(検討成果)

■ グループE (ピンク：他グループとの意見交換の内容、青：Eグループの意見)



▪ 意見まとめ（理想の庁舎に関する主な意見）

各班であげられた主な意見をまとめると、①多目的に利用できる庁舎、②まちの情報拠点、③防災に役立つ庁舎、④市民に開かれた庁舎、⑤皆が集まる庁舎、⑥アクセスのよい庁舎、⑦DX化を見越した庁舎、⑧ちょうどよい規模の庁舎、⑨庁舎のイメージに大別できました。

分類	理想の庁舎に関する主な意見
①多目的に利用できる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・平日と休日で機能を切り替えるなど、柔軟な場所活用を行い、新たに利活用できるスペース（ゆとりスペース）を生む ・手続き以外の目的で訪れる庁舎/多目的に利用できる庁舎
②まちの情報拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・水や歴史をはじめとした、まちの情報の共有/魅力の発信 ・人材のマッチング等、まちの情報を共有できる ・人のつながりによる情報共有・助け合いをうながす「地域のコーディネーター、まちのコンシェルジュ」
③防災に役立つ庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に支援物資が保管できるフレキシブルな使い方 ・災害時に物資を保存できる地下スペース
④市民に開かれた庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に弾けるピアノがあるなど、文化活動を行える庁舎 ・子どもが遊べる、使える場所がある ・学校の活動の発表場所となるような、学校との連携
⑤皆が集まる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人が寄り添い合えるような場所 ・何でも相談できる窓口、手続きではなく相談をしに来る ・観光など人の集まる拠点、人が集まりやすい場、まちなかの集会所 ・地域と連携した食堂、名物のカレーがあるなど、付加価値を持たせることで「来たいから来る庁舎」にする
⑥アクセスの良い庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前にアクセスしやすい ・駐車場がたりない
⑦DX化を見越した庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・事務スペースの効率化、スリム化 ・オンライン手続き、窓口の一元化 ・DX化と人との交流の両立
⑧ちょうどよい規模の庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・身の丈に合った庁舎 ・将来の人口減少などを見越し、機能に見合った規模の庁舎
⑨庁舎のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボリックな場所